

多文化共生のまちづくりを ～町人口の約1%～

約1%

中能登町の外国人の割合です。
何人くらいか想像できますか？



近年、日本における在外国人数は282万人(令和元年6月末現在)にのぼり、全国的に外国人住民数が増えています。中能登町には、人口の約1%にあたる約200人の外国人が暮らしています。そのうち約7割は技能実習生で、あとの約3割は永住者等になります。主な国籍別では、在住者が多い順に中国、ベトナム、韓国などです。出身国や滞在理由はさまざまでも、中能登町に暮らし、町の未来を支える住民であることには変わりはありません。あなたの地域にもきっと外国人住民が暮らしているでしょう。

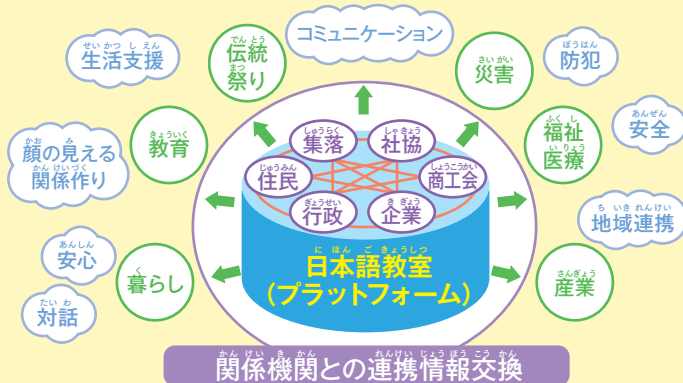
身近な存在の外国人住民と地域住民が、

- ①互いの違いを認め合い、
- ②思いやりを深め、
- ③それぞれの持つ特技を発揮し、
- ④役割を分担しながら、

楽しく豊かな暮らしを共につくっていきましょう。

地域の中での 役割のイメージ

「つながる」場所! 多文化共生*の拠点!



関係機関との連携情報交換

外国人も「地域で暮らす生活者」であり、住民です。中能登町では、町内に暮らす外国人住民が地域住民と分け隔てなく暮らし、積極的に地域参画し、社会の一員としての役割を担い、活躍をする多文化共生の町を目指します。また、安心・安全に生活ができ、町民の皆さんをはじめ、地域及び各種団体等と連携を図りながら、多文化共生*を推進できるようプランを策定します。

※多文化共生とは? 国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくことです。

現状と課題

- 日本語が十分話せない在外国人と外国語を話せない地域住民との交流が少なく、在外国人は孤立しがちである。
- 交流事業や接点が少ない事、また生活ルールや文化が違う事により、地域住民は、在外国人と関係づくりに戸惑っている。
- 日本語による会話が不十分なこと、地域や隣近所のコミュニティがうまくいかない場合がある。
- 外国人住民が日本語によるコミュニケーションをとる場所や機会が少ない。
- 災害時の情報が伝わりにくい。

外国人住民とともに生きるために、 町民の皆さんができること

お互いが安心・安全に暮らせる
顔の見える関係作りを!

町民一人一人が、町内で暮らす外国人住民と共に生きるためには何ができるか。お互いに助け合い、支え合うあたたかい関係を築けるよう、なかのとまち多文化共生推進プランのほんの一例をご紹介します。

なかのとまち多文化共生推進プラン

① 情報伝達支援

- お店や学校、町内会で配る、案内やチラシ、回覧板の漢字にふりがなをふったり、「やさしい日本語*」を使ってみる。
- お店や工場の説明や張り紙を「やさしい日本語*」に変えたり、漢字にふりがなをふってみる。
- Voice traなど、翻訳アプリを利用して外国人住民と意思疎通してみるなど

② 生活支援

- 病院や学校、お店などで日本語がわからなくて困っている外国人がいたら、「やさしい日本語*」で話しかけてみる。
- 防災訓練や健康診断など、安全、健康に関わる大事な行事について、外国人住民にも意義を説明し、参加を呼びかける。
- 大雨、洪水等災害のときに、情報を伝えたり、避難を呼びかける。など

③ 日本語学習支援

- 身近な外国人に日本語で声をかけてみる。
- 町の日本語教室にボランティアや運営スタッフとして参加する。
- 日本語教室のイベントを見に行って、外国人住民と話してみる。など

④ 多文化共生の地域づくり

- 地域行事、学校行事、町内会、青年会、子ども会などへの参加を外国人住民にも呼びかける。
- 地域行事、学校行事などに、ゲストや講師、参加者として外国人住民を呼んでみる。など